

かみ 神のまなざし

えんちよう こうち たかし
園長 高地 敬

この一年、世界では自然災害や紛争が多く起こり、また、皆さんの中でもさまざまなことがあったのではないのでしょうか。

聖歌第102番(『日本聖公会聖歌集』)はクリスマスの聖歌で、とてもきれいなメロディーです。岩崎 淳一神父さんの作詞で、もともとカトリック教会の聖歌だったようです。

1 ふか やみ さなか ほし みち まよ ひと かみ 深い闇の最中に きらめく星は 道に迷う人への 神のまなざし

右に 左に揺れ動きながら生きている人はとても多いと思います。硬い意志を持っているように見える人には、そのようにしか生きられないという弱さがあるのかもしれない。私たちはみんな揺れ動き、いつも道に迷っている。そんな私たちを神さまが見守ってくださっています。

2 かぜ さばく さ で はな なみだ ひと かみ 風にすさぶ砂漠に 咲き出る花は 涙ためた人への 神のかがやき

今年も悲しいことがあって、でも、だれにも言えず、震えながら一人で我慢するようなこともあったのではないのでしょうか。悲しい出来事は、だれにでも起こることとして、しっかり受け止めなければならないと分かっているのですが、神さまにぶつぶつ文句を言いたくもなります。でも、そんな人を神さまご自身が慰めようとしてくださっておりました。

3 つか は こころ こえ ま ひと かみ 疲れ果てた心に ささやく声は 待ちこがれた人への 神のおとずれ

体が疲れるのもしんどいですが、いろんなことがあって気持ちがいっぱいのはもっとしんどいと思います。そんな時に、「あなたは一人ではない」と、これがクリスマスの神さまからのメッセージでした。

聖歌第102番には各節に繰り返しの部分があります。

かみ こ うた よろこ 「メリー・メリー・クリスマス 神のみ子よ ハレルヤ クリスマス 歌え 喜べ」

神さまからの呼びかけに答える「歌え 喜べ」。ひょっとすると素直に言えないことがあるかも知れませんが、「歌い 喜ぶ日が 必ず来る」との呼びかけだけは受けていたいと思います。(「聖歌102 深い闇の最中に」で検索してみてください)